

笑ってごらん

第534号 H.27.12.1発行

～今日のことば～
人のお世話をしよう 人のお世話にならぬ
よう そして 報いを求めぬよう
(医師・官僚・政治家：後藤新平)



◇◆「ん」の話をしよう。以前、聞いた話なのだが、80代女性Aさんと70代女性Bさん二人の会話である。年齢の話になったのであろう、お互いが自分の年齢を告げた後のこと。BさんがAさんに対して、「お若いんですね」と言った。AさんもBさんに対して、「お若いんですね」と言った。さて、両者の違いに気付いたであろうか？ 違いは「ん」一文字である。年下のBさんは年上のAさんを見て、その元気ハツラツぶりから、まさか80代とは思えず、「お若いんですね」と言ったのだ。逆に、年上のAさんは、年下のBさんが同じ年くらいに見えたのに、意外にも若かったので、「(老けて見えますが、実は)お若いんですね」と言ったのだ。この後、二人の会話がどうなったのかは知る由も無いが、たった「ん」一文字で大きく意味が変わってしまうことに驚きを感じたのだった。う～む、日本語って難しい…。 ◇◆28日(土)、看護学科専門課程2年生の看護師国家試験必勝激励会が行われた。全員、配られたばかりの「絶対合格」ハチマキを締め、会に臨んだ。恩師挨拶に立った大江先生曰く、本校普通科の卒業生で今回同じ看護師国家試験を受験予定の看護大学4年生が来校して言うには、国家試験受験要項に「当日、他校のパフォーマンスに惑わされないように」と記載されていたという。先生に詳細を聴くと、「大勢でハチマキを締めて受験会場に現れる学校がある」とのこと(もちろん本校のことだね)。その卒業生曰く、母校の後輩にあたる人たちが周囲の受験生にプレッシャーを与えるくらいの意気込みで受験に臨む様子は、自分にとっては「よし、共に頑張りよう」と気合いが入るものである、という。さらに言うには、「自分たちは国家試験まで自学自習でしかない。でも、鳳凰高校生は夜間学習会や合宿補習などを行ってもらえて幸せ」と。生徒にしても私たち教員にしても、なかなか他校の様子までは知り得ないもの。この卒業生の話からすると、本校は手厚い指導がなされている方のようだ。看護師国家試験まで残り80日を切った。受験生それぞれが最後まで意識を高く保ち、是非とも合格の栄冠を勝ち取って欲しい。 ◇◆柔道部の宇都選手が九州大会で3位入賞という快挙を成し遂げた。素晴らしい！ 自信もついたことだろう。今後ますます練習に励み、さらにレベルアップすることを期待。
～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・～・・

感謝道

◇◆意見・・・個人が持つ意見や考え方は、それぞれに異なって当たり前。違うことを認め、相手の話を素直に聴ける人間は高德。自分と違う意見を否定し、喧嘩腰で話をする人間は損をする。如何に違えども、それぞれの意見に良いところもある。その良いところも拒否し、自分を通そうとすれば、相手も気分を害し、互いに争うことになる。高德な人間は争うことを嫌い、温厚な会話を行い、相手が争うような口振りでも、柔らかく言い返す。話し合うことはとても大事。でも、仁徳の心が欠けてしまえば、良きところを学ぶことが出来ない。仁徳の基本である「恕」の心。恕(己が欲せざるところ、人に施すなかれ)は相手を敬い、相手の意見を聴き、学ぶところを学び、自分の意見も十分に伝える。互いに嫌な思いを避ける、これが仁徳の恕である。(心学ブログより転載) ◆人間関係は難しい。言いたいことをはっきり言って気まずくなることもあれば、言いたいことを濁してしまったが為に思わぬ展開をしてしまうこともある。一つの同じ方向に向かっていても、その具体的な方法についての考えが異なることがある。だからこそ、「自分自身の考え＝世間の常識」と捉えることなく、細やかな部分まで穏やかに話し合う必要がある。そのために、相手の話をしっかり「聴く力」が必要となる。何故、口は一つで耳は二つあるのか。一説によれば、「言いたいことの2倍人の話を聴け」ということらしい。「聴く耳を持つ」ことでトラブルは軽減されるのではないだろうか。前段のブログを読んでそんなことを考えた。「言った・・・聞いてない」の水掛け論は収拾がつかない。穏やかな恕の心を持とう。